



きらきらキッズ

令和6年1月9日
多度津小学校
学校だより No. 21

3学期 始業式

2024年が始まりました。今年は、辰年です。「たつ」（竜・龍）は十二支の動物の中で、唯一の空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴だと言われています。そこで、辰年は運気の上昇の年になる年といった言い伝えもあるようです。多度津小学校にとっても上昇の年にしたいと思います。

今日から3学期が始まりました。3学期は今年度の締めくくりの学期であり、来年度に向けて、準備をする「0学期」とも言われる学期です。教職員一同、児童の成長のために精一杯努めますので、御理解・御協力をお願いします。

以下、始業式での校長の話です。

みなさん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございませう。「元気に冬休みを過ごし、3学期の始業式を、みんなで迎えましょう。」と2学期の終業式で私がお願いしたことをかなえてくれてありがとうございます。とてもうれしいです。

3学期が始まりました。私が4月から言い続けている「『日本一すばらしい!』と自慢できる学年級」にするための仕上げの学期であり、次の学年に向けて「みんなで」力をたくわえる学期でもあります。

そんな3学期にするためのヒントになる文章を紹介いたします。それは、日本の有名な作家である司馬遼太郎さんが、小学校6年生の教科書に載せるため、30年以上前に書いた「二十一世紀に生きる君たちへ」という文章です。全部は長いので、4か所だけ、低学年の人にも分かるように言葉を簡単にして、紹介いたしますね。

まず1か所目。自分に厳しく、相手には優しく、素直で賢い自分になることがとても大切です。

2か所目。人間は、助け合って生きているのです。人間は一人では生きていけません。だから「助け合う」ということが必要なのです。

3か所目。「助け合う」という気持ちや行動のもとになるのは、相手に対する「優しさ」です。

最後に4か所目。「優しさ」を身に付けるためには、練習をしないといけません。その練習とは「相手の気持ちを想像する。」ということです。例えば、友達が転んだとき、「ああ、痛かっただろうな。」と友達の気持ちを想像してください。困ったりつらい思いをしていたりする人の気持ちを想像すること、これが「相手の痛みを感じる。」ということです。そして、それこそが「優しさ」なのです。相手の痛みを感じる優しい人が増えれば、みんながなかよしになれますよ。

「『日本一すばらしい!』と自慢できる学級になりました。」という報告を待っています。以上でお話を終わります。

校長独り言

1月1日、能登半島地震があり、大人数の方が被害に遭われました。翌日の1月2日、サッカーの全国高校選手権で石川県代表の星稜高校の3回戦の試合がありました。地震の被害のため地元から応援団が駆けつけることができません。

しかし、試合の時は星稜高校を応援する多数の人が集まっていました。その中には2回戦で星稜高校に敗れた日大藤沢サッカー部の部員の姿がありました。彼らは星稜カラーである黄色のごみ袋をかぶって応援していました。「こういうときこそ、星稜の応援をしたい。」という提案が生徒からあったそうです。また、星稜高校が対戦する船橋市立船橋高校の選手が試合前にグラウンドで「力を合わせて乗り越えよう」というメッセージを掲げていました。これこそが「相手の痛みを感じ、思いやる」ということです。このような話を本校の子供たちに伝えることも「道徳」だと思えます。